



学校だより No. 12

日々新たに

尾崎市立日新中学校

平成31年3月25日発行

節目の時を大切に

本日、修了式を迎えました。生徒達が担任の先生からもらう通知表には、「修了証」がついています。これは、1年生は1年生の、2年生は2年生の、それぞれの学年で学ぶべきことを、しっかり学び終わりました、という証明書です。

ちょうど1年間の学びを終えた今日のような日のことを、「節目の時」と言います。「節目」というのは、「木材や竹の節があるところ」を指します。また、「物事の区切りとなる大事なところ」という意味もあります。

「節」のある植物である竹について調べてみると、他に見られない独自の特徴を持っていることがわかります。竹はイネ科の植物で単子葉類に分類されます。中1の理科で習いますが、単子葉類には、茎を太くする形成層と呼ばれる組織がないので、あまり太くなりません。比較的太い種類のモウソウチクでも、せいぜい直径18センチくらいです。

一方、縦の成長は盛んで、モウソウチクでは、数ヶ月で優に20メートルを越える高さにまで成長します。しかし、竹は、極めて細長い体をしているのに、強風にあおられても容易に折れたり、倒れたりすることはなく非常に丈夫です。

実は、このような竹の成長の速さや頑丈さの秘密は、その「節」にあります。多くの植物は、茎の先端の成長点と呼ばれる場所で細胞分裂が行われ成長します。竹の先端部分にも成長点がありますが、加えて「節」の部分にも成長帯と呼ばれる組織があって、ここでも活発に細胞が分裂し成長するのです。竹の「節」は、タケノコの時代から数が変わらず約60個あって、その全ての成長帯で細胞分裂が起こり、節と節の間が伸びて背が高くなっていきます。

おまけに、竹の体は、何本もの竹がお互いに地下茎（地面の中の茎）でつながっていて、成長に必要な栄養分を、他の成熟した竹からもらうことができます。そのため、その成長は非常に速く、最盛期には1日に80~100センチも伸びて、2ヶ月足らずで20メートルにも達します。

次に、竹の丈夫さについて見てみると、竹を切ったり、割ったりするとわかりますが、茎の中はパイプのように空洞になっています。そのため、竹の茎は非常にしなやかで、良く曲がります。

けれども、根元から先端まで全て空洞なら、横から強い力を受けた場合、倒れたり、折れたりしてしまいます。それを防いでいるのが茎の中にある「節」です。茎の中の非常に硬い「節」が、強風などによる横からの大きな力に耐えられるように、体を支えているのです。竹の引っ張り強度（両側からの引っ張りに耐える強さ）は、鉄筋よりも二、三倍強いのだそうです。

このように、竹の「節」の重要な役割を考えると、「節目」という言葉に、「物事の区切りとなる大事なところ」という意味があるのもうなずけます。

話は変わりますが、「節目」を英語でいうと、「turning point」または「milestone」と表します。「turning point」は「変化するきっかけ」、「milestone」は1マイルごとに置かれた石、つまり「道しるべ」を意味しています。

今日の修了式から4月の始業式までの間、つまり春休みは、広い意味で「節目の時」といえます。「節目」は、植物の成長にとって、とても重要なものですが、人間の成長にとっても、大変重要な時期です。生徒達には、この春休みを大切な「節目」と捉え、その英語が意味しているように、「自分が変化するきっかけ」、そして、次のステップに進むための「道しるべ」としてほしいと願っています。

第57回卒業証書授与式

3月8日(金)、第57回卒業証書授与式が、しめやかに執り行われました。男子77名、女子100名、計177名の生徒が、日新中学校を巣立っていきました。

式では、2年生を代表して賀好凌治君が送辞を、卒業生代表の林愛梨さんが答辞を述べました。答辞の後の「卒業生の歌」は、「証」と「旅立ちの日に・・・」の2曲を歌い、その心に響く合唱が、会場全体の涙を誘い、感動的な卒業式となりました。

式後、運動場に卒業生を見送る花道をつくり、保護者、在校生代表で、3年生の巣立ちを拍手で見送りました。卒業生たちの未来に、幸多かれと祈ります。



学校説明会・部活見学会

2月27日(水)、本校に入学予定の七松小、立花南小、難波の梅小の6年生を中学校に招待し、生徒会役員から中学校生活について説明を行いました。

最初は、緊張気味の小学生も、生徒会役員の優しく丁寧な説明にリラックスし、部活や学校の決まりなどについて、手を挙げて色々な質問をしていました。説明の後は、部活動の様子も見学してもらいました。小学生達が、4月に元気に中学校へ入学してくれることを心待ちにしています。



😊 ちょっとイイ話 😊

先日、他市にお住まいの高齢者の方から、校長宛にお手紙をいただきました。手紙には、その方が、3月に、尼崎市の病院に診察に来られた際に、道に迷って困っていると、本校2年生の女子生徒が優しく声をかけ、わざわざ目的地まで一緒について案内してくれ、大変助かりうれしかった、という内容が書かれていました。

この生徒の高齢者の方への気配りや思いやりの行動は、本当に素晴らしいと思います。

修了式後の全校集会で、今回の行動を全校生徒に紹介し、この生徒に感謝状を手渡しました。こういう優しい勇気、思いやりの気持ちが、日新中学校全体に広がってほしいなと思いました。

☆ 頑張る日新中生！☆

●尼崎市中学校バスケットボール強化大会
第19回1年生大会 女子の部 第3位



●尼崎市スポーツ特別賞
DUNLOP SRIXON 全日本ジュニアテニス選手権'18
14歳以下男子シングルの部 優勝
3-4 水口 翔瑛

●第35回全国年賀はがきコンクール
優秀特選 2-2 川合 こはる
特選 2-4 中元 歩希 1-1 大田本 果純
金賞 2-1 久保 尋斗 1-2 松田 駿佑
銀賞 2-1 川下 元気 1-4 新谷 駆琉
銅賞 1-3 立切 晴喜 1-3 松下 大地



面展台設置



図書委員会の取組として、3月12日(月)から、1,2年生の廊下に「面展台」を設置しました。「面展台」は、本を表紙が見えるように展示するもので、本の内容がわかりやすく、見た人の興味をひきやすい本棚です。

面展台は、各学年廊下にすでに設置しているベンチの横に並べて設置し、ベンチに座って本を見ることができるようになっています。現在は、スポーツ月刊誌などを置いています。今後、生徒が興味を持てる色々な本を置いていきたいと考えています。

本校は、図書室が教室から離れたところにあり、実際、



生徒の毎日の読書時間も大変短いのが現状です。今回の図書委員会の取組によって、1人でも読書に興味を持ってくれる生徒が増えてくれることを期待しています。

学校評価結果

学校日より裏面に、平成30年度「学校評価」を公表します。「自己評価」は本校の教職員が、「学校関係者評価」は本校の元教頭・元教員・元PTA役員等の学校評議員が、評価者となります。

「学校関係者評価」では、「自己評価」及び生徒、保護者対象の「学校アンケート」の結果を踏まえた評価と、学校運営に対する意見をいただきました。「学校評価」結果と、学校評議員からの「学校関係者意見」を、来年度の学校運営に生かしたいと思えます。

なお、この「学校評価」については、本校の学校ホームページにも公表しております。

◎ お礼 ◎

本年度、保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりました。皆様の本校学校教育活動に対するご理解とご協力のお陰で、一年を終えることができました。ありがとうございました。

来年度もまた、変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



4月の主な予定



月	火	水	木	金	土	日
1 春季休業日	2 春季休業日	3 春季休業日 部活中止	4 春季休業日	5 春季休業日 午前中部活中止	6	7
8 4校時まで 着任式・始業式 2,3年教科書配布	9 離任式 入学式準備	10 入学式 2,3年学活(PM)	11 対面式(1h) 1年3校時まで 1年教科書配布	12 生徒朝礼 全学年6時間授業	13	14
15 生徒朝礼 クラブ紹介(5,6h)	16 1校時道徳	17 3年事前指導	18 3年全国学力・学習 状況調査	19 3年修学旅行 1年自転車教室(3h)	20 3年修学旅行	21 3年修学旅行
22 1,2年家庭訪問 1,2年朝学あり50分×3 3年代休日	23 1,2年家庭訪問 1,2年朝学あり50分×3 3年代休日	24 1,2年家庭訪問 1,2年朝学あり50分×3 3年朝学あり50分×6 部活再登校 15:15	25 1,2年家庭訪問 1,2年朝学あり50分×3 3年朝学あり50分×6 部活再登校 15:15	26 1,2年家庭訪問 1,2年朝学あり50分×3 3年朝学あり50分×6 部活再登校 15:15	27	28
29 <昭和の日>	30 <国民の休日>					

<5月の主な予定> 5/16(木)17(金) : 1年宿泊学習, 2,3年中間テスト 5/20(月)~28(火) : 教育相談
5/25(土) : 土曜参観・PTA総会・育成部総会 5/31(金) : 3年学力調査, 1年中間テスト

1. 学校評価(自己評価)

※ 評価の基準

4:十分達成できた 3:達成できた 2:取り組んでいるが成果が十分でない 1:取組が不十分である

学校教育に関する重点取組	評価
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む (1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.0
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	2.9
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する	3.0
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3.1
5 教育目標 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実 <学校教育目標> ・自ら学び、自立するための学力を育てる ・互いを尊重し、社会の中でともに生きる力を育てる ・健やかな体と豊かな心を育てる	2.8
6 研究テーマ (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実 <研究テーマ> 「仲間とともに生きる力を育む教育をめざす」 ~生徒が主役の授業実践~	3.0

2. 学校評価(学校関係者評価)

- ※ 評価の基準
- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 4:よく取り組んでおり、成果が大きい | 3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる |
| 2:取り組んでいるが成果が十分でない | 1:取組が不十分である |

学校関係者意見等	評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・「アクティブ・ラーニング公開授業研究会」の実施、教職員の自己評価での改善策の記入等、積極的な取組が評価できる。 ・学校は、教職員の指導力や思いを把握した上で、学力向上の方策を練ってもらいたい。 ・学力向上には「授業改善」が最善の方法なので、教職員の意欲を引き出し、協働して学力向上に取り組んでもらいたい。 ・「アクティブ・ラーニング」や「チャレンジ学習」の実施等、学力向上に向けて努力して取り組んでいる。 ・体育大会での「学級旗」の作成や「カラーパネルの人文字」の挑戦などで、クラスの団結力が高まったと思う。</p>	3.1
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・教員のカウンセラー的な立場での指導が、ますます必要とされている。 ・教職員が、「心の教育とは何か」を自問自答しつつ、生徒と接していくことが大切である。 ・生徒の安全・心のケアのために、生徒・保護者に寄り添ったきめ細かい対応ができていると思う。 ・心の教育にかかわる教職員の研修を計画してはどうか。 ・「トライやる・ウィーク」の感想から、親への感謝と家族間の会話が増した等、心の成長がみられる。 ・職員間でのコミュニケーションを大切にってもらいたい。</p>	3.0
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校づくりに取り組む</p> <p>・学校だよりの充実した内容や、生徒アンケート、保護者アンケートの公開等、大変評価できる。 ・職員の中から、道徳の指導での課題に関する指摘が出てきたことは評価できる。 ・小中連携は、中学校が主体となってリードしていくことが重要である。 ・地域清掃に努めたり、幼稚園・小学校との連携事業をすすめる事は、保護者や地域住民からの信用を得る大きな力となる。 ・「たそがれコンサート」の開催が定着し、先生方と生徒に感謝している。 ・「朝読書」「おはなし集会」等の取組に努力が感じられる。</p>	3.0
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・「交通安全教室」、「避難訓練」、「エビペン講習会」、「情報モラル講演会」等の実施から、生徒だけでなく教職員の意識の高まりを感じる。 ・学校だよりに、教育環境について、ハード面の点検や整備、ソフト面の充実等努力されていることが窺える。 ・登校中に地震が起きたとき、生徒に適切な指示が出せていた。</p>	3.0
<p>5 教育目標</p> <p>・生徒アンケートで、「進んで授業に取り組んでいる」の肯定的割合がアップしてきているのは、教職員の取組の成果である。 ・日々の授業や行事をはじめ、学校教育活動全てが教育目標と関連があることを、時間をかけて説き続ける必要がある。 ・「チャレンジ学習」に参加することで、学びながら友人も大切にすることも学んでほしい。 ・図書室で、図書委員さん等が、敬語で会話してくれる。</p>	2.9
<p>6 研究テーマ</p> <p>・「研究推進委員会」の取組や「アクティブ・ラーニングの公開授業研究会」等から、教職員の意識の変化が感じられる。 ・市の「全体教科研究会」の研修も活用しながら、全教科でなくともできる教科から教科研究を進めてもらいたい。 ・「アクティブ・ラーニング」について、「自分にはできない」と考えず、各自が一歩ずつ前進すれば、学校全体の進展になる。</p>	3.0